一月（大）睦月（むつき）　觜宿

（一月六日小寒の節より　月命癸丑九紫火星の月　暗剣殺南の方）

旧十二月大　正月小

日	曜日	干支	九星	行事	旧暦	六輝	中段	廿宿	下段	日出入	月出入	満潮	干潮
1日	日	つちのとひつじ	五黄	◉元日、年賀、初詣、歳旦祭、修正会　旧壬寅十二月大	十	先負	あやぶ	昴	万よし	6.50 16.38	12.37 1.21	0.18 11.58	5.42 19.30
2日	月	かのえ さる	四緑	振替休日、初荷、初夢、書初め、皇居一般参賀、庚申	十一	佛滅	なる	畢	大みゃう	6.51 16.39	13.06 2.23	7.00 20.19	8.13 21.04
3日	火	かのと とり	三碧	福岡筥崎宮玉せせり	十二	大安	おさん	觜	神よし	6.51 16.40	13.39 3.25	3.43 13.45	2.27 12.46
4日	水	みづのえいぬ	二黒	官庁御用始め	十三	赤口	ひらく	参	月とく	6.51 16.41	14.17 4.26	4.26 14.39	9.12 21.45
5日	木	みづのと ゐ	一白	初水天宮、初亥、八せん終り、一粒万倍日、不成就日	十四	先勝	とづ	井	ぢう日	6.51 16.41	15.01 5.26	5.00 15.24	10.00 22.23
6日	金	きのえ ね	一白	小寒〇時〇五分、初子、六日年越し、公現祭、高崎だるま市、東京消防出初式、天しゃ、九星陽遁始め、甲子、一粒万倍日	十五	友引	とづ	鬼	よろづよし	6.51 16.42	15.50 6.21	5.29 16.02	10.41 23.01
7日	土	きのと うし	二黒	七草、人日、〇望八時〇八分、福岡太宰府天満宮うそ替え・鬼すべ	十六	先負	たつ	柳	十し	6.51 16.43	16.45 7.11	5.58 16.36	11.17 23.36
8日	日	ひのえ とら	三碧	初寅、初薬師、東京鳥越神社とんど焼	十七	佛滅	のぞく	星	天おん	6.51 16.44	17.43 7.55	6.25 17.08	11.48 —
9日	月	ひのと う	四緑	◉成人の日、京都西本願寺報恩講（16日迄）、初卯、宵えびす、一粒万倍日	十八	大安	みつ	張	天おん	6.51 16.45	18.42 8.32	6.52 17.39	0.10 12.19
10日	火	つちのえたつ	五黄	学校始業、一一〇番の日、初金毘羅、十日えびす	十九	赤口	たいら	翼	天おん	6.51 16.46	19.41 9.04	7.20 18.11	0.43 12.49
11日	水	つちのと み	六白	初巳、鏡開き、蔵開き、己巳	廿	先勝	さだん	軫	母倉	6.51 16.47	20.39 9.33	7.48 18.45	1.13 13.20
12日	木	かのえ うま	七赤	大つち、三隣亡	廿一	友引	とる	角	母倉	6.51 16.48	21.37 9.58	8.17 19.24	1.43 13.55
13日	金	かのとひつじ	八白	不成就日	廿二	先負	やぶる	亢	大みゃう	6.51 16.49	22.35 10.22	8.48 20.15	2.13 14.36
14日	土	みづのえさる	九紫	十四日年越し、仙台どんと祭、大阪四天王寺どやどや	廿三	佛滅	あやぶ	氐	神よし	6.50 16.50	23.35 10.46	9.21 21.24	2.46 15.31

冠婚葬祭とは、わが国古来よりの礼法で、加冠、婚礼、葬礼、祭祀の四つを略していったものである。暦に即したものを中心にして、そうでない一般的なものは適宜に配置した。

【冠】これは、加冠（戴冠）の儀という男子の元服を代表にしたもので、人間が成長し、人格が形成されていく段階において行う、数々の儀式の総称である。

一月の冠儀は「成人式」（一月第二月曜日）に極まる。これは、法的に新しく社会の一員に加わる満二十歳になった青年男女が、自覚してめでたく巣立つことを祝福する日として国民の祝日となっている。

【婚】婚姻、婚礼は、季節にほとんど関係がなく、寒中であれ暑中であれ、日柄さえよければ挙式するならわしであるが、農家では比較的ひまな一月に式を挙げることが多い。

【葬】生者必滅、たとえ王者といえどもこれを避けうる者はなく、そしてその命尽きるとき、季節を問うものでないことはもちろんである。従って葬儀そのものは、一月に大きな関係はないが、この月七日までのいわゆる「松の内」は仏式では葬儀を差し控えるならわしである。

【祭】暦とは切っても切れないのが祭祀、遠い祖先から伝わった「お祭り」の年中行事である。

年の初めの「元日」。一年間の出発点として、数々の風習が伝承されています。初詣、年始回り、門松、鏡餅、若水、屠蘇、雑煮、おせち料理……等、地方により家庭により、多少の差異はあるが、ほとんどの人がこの日を祝う。

三日までを「三が日」といい、その間の二日は初荷、初夢、書初め、仕事始め…など縁起を祝う。

七日は「七日正月」といい、十五日は「小正月」として、それぞれの習慣による祭事を行うが、七日の「七草がゆ」については、冬期のビタミン補給だとする合理的解釈もある。

日	曜日	干支	九星	行事	旧暦	六輝	中段	廿宿	下段	日出入	月出入	満潮	干潮
15日	日	みづのととり	一白	◑下弦一一時一〇分、小正月、小豆がゆ	廿四	大安	なる	房	●	6.50 16.50	— 11.11	9.57 22.58	3.26 16.53
16日	月	きのえ いぬ	二黒	やぶ入り、賽日、えんま詣り、真宗本派親鸞聖人忌	廿五	赤口	おさん	心	めっもん	6.50 16.51	0.37 11.39	1.11 11.32	4.26 18.26
17日	火	きのと み	三碧	土用一八時四八分、防災とボランティアの日、秋田太平山三吉神社梵天祭	廿六	先勝	ひらく	尾	月とく	6.50 16.52	1.43 12.12	3.10 12.39	6.06 19.34
18日	水	ひのえ ね	四緑	初観音、一粒万倍日	廿七	友引	とづ	箕	きこ	6.49 16.53	2.53 12.52	4.08 13.54	7.40 20.31
19日	木	ひのと うし	五黄		廿八	先負	たつ	斗	十し	6.49 16.54	4.06 13.42	4.52 15.00	8.53 21.24
20日	金	つちのえとら	六白	大寒一七時三〇分、二十日正月、小つち	廿九	佛滅	のぞく	牛	ぶく日	6.49 16.55	5.18 14.43	5.32 15.54	9.53 22.15
21日	土	つちのと う	七赤	初大師、一粒万倍日、不成就日	卅	大安	みつ	女	神よし	6.48 16.56	6.24 15.55	10.44 23.05	— 12.10
22日	日	かのえ たつ	八白	●朔五時五三分、旧元日、島根出雲大社福神祭、黙阿弥忌、臘日　旧癸卯正月小	朔	先勝	たいら	虚	万よし	6.48 16.57	7.19 17.13	6.09 16.42	11.29 23.51
23日	月	かのと み	九紫		二	友引	さだん	危	天おん	6.47 16.59	8.05 18.31	6.45 17.27	— 12.10
24日	火	みづのえうま	一白	初地蔵、東京巣鴨とげぬき地蔵尊大祭、三隣亡、不成就日	三	先負	とる	室	大みゃう	6.47 17.00	8.43 19.47	7.18 18.12	0.34 12.50
25日	水	みづのとひつじ	二黒	初天神、東京亀戸天神うそ替え、法然上人忌	四	佛滅	やぶる	壁	天おん	6.46 17.01	9.15 20.58	7.48 18.57	1.12 13.29
26日	木	きのえ さる	三碧	文化財防火デー、道元禅師誕生会、天理教本部春季大祭、十方ぐれ入り	五	大安	あやぶ	奎	神よし	6.46 17.02	9.44 22.06	8.16 19.45	1.46 14.10
27日	金	きのと とり	四緑	国旗制定記念日、小田原道了尊大祭	六	赤口	なる	婁	●	6.45 17.03	10.11 23.11	8.42 20.39	2.17 14.55
28日	土	ひのえ いぬ	五黄	旧七草、水沢黒石寺蘇民祭、初不動、松山椿祭（30日迄）、奈良若草山焼き	七	先勝	おさん	胃	五む日	6.44 17.04	10.39 —	9.07 21.44	2.44 15.51
29日	日	ひのと ゐ	六白	◐上弦〇時一九分	八	友引	ひらく	昴	大みゃう	6.44 17.05	11.08 0.15	9.34 23.23	3.07 17.08
30日	月	つちのえ ね	七赤	一粒万倍日	九	先負	とづ	畢	くゐ日	6.43 17.06	11.40 1.18	10.08 —	3.27 18.36
31日	火	つちのとうし	八白		十	佛滅	たつ	觜	十し	6.42 17.07	12.16 2.20	11.01 —	— 19.48